集中 OPINION

世界レベルの研究で社会に貢献を
日本初「医工」大学統合が目指す道

内田 信一

東京科学大学
理事(医療担当・CMO)、医学博士
大学院医歯学総合研究科 腎臓内科学分野 教授

昨年10月に東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し、新たに東京科学大学が誕生した。2020年以降、幾つかの国公立大学が統合したが、研究力が国内最高水準と認められた「指定国立大学法人」同士の統合は初のケースとなる。統合の目的は、医学系と理工系の強みを生かした「医工連携」を進め、世界と肩を並べる大学へと成長する事だ。その為には、双方の大学の人材や研究成果を文字通り「統合」する事が欠かせない。新大学はどの様な道筋で世界を目指し、何を実現するのか。東京科学大学医療担当理事で最高医療責任者(CMO)の内田信一氏に統合の舞台裏や、今後目指す方向等について話を聞いた。

――日本初の「医工連携」による統合は、どの様に実現したのでしょうか。

内田　東京科学大学の田中雄二郎学長が、東京医科歯科大の学長を務めていた2022年頃、新型コロナ対応を行って来た中で「もっと社会に貢献出来る大学になるにはどうすれば良いのか」と考え始めたのが統合のスタートでした。東京医科歯科大学は「医療系総合大学」を名乗っていましたが、大きな枠で見れば医療系の単科大学です。コロナ禍では、診療面で大きな貢献をしたという自負は有ります。しかし、欧米の大学に比べると、研究成果の発信という点では大きく後れを取っていました。残念ながら、そこ迄対応する余裕が無かったのです。そこで「他の大学と組んで研究力を強化しなければならない」と考える様になりました。

――臨床と並行して研究活動を行い、論文まで提出するのはかなり負担が大きい。

内田　医療現場では、患者の生死に関わる状況が多く、「研究の為に患者検体が欲しいと言われても手が回らない」という雰囲気が有りました。それは、医療スタッフがどれだけ真剣に治療に向き合っていたという事では、決して恥じるべき事ではありません。只、医療現場の責任者としては、医療スタッフ全体にもう少し対応もマイ[illegible]ていれば対応も違っていたのではない[illegible]場にもう少し余裕が有れば、[illegible]出来たのではないかという思[illegible]

――そうした[illegible]に東京工業大学も共感した。

内田　当時の[illegible]大の益一哉学長も真剣に受け止めて下さり、両学のトップ同士で検討を開始したとこ

続きを読むには購読が必要です

詳しくはホームページをご覧下さい